

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100739		
法人名	株式会社キリンの里		
事業所名	キリンの里グループホーム西町		
所在地	鳥取市 西町2丁目122-8		
自己評価作成日	令和 6年 1月 12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいおらいと		
所在地	鳥取県鳥取市気高町浜村342番地		
訪問調査日	令和6年 1月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人おひとり様が日々笑顔で過ごして頂けるように職員全員で考え、その人らしく楽しく安心して生活して頂ける施設を目指しています。認知症について理解を深め、少数だから出来る個別ケアにも取り組んでいきます。コロナウイルスの影響で出来なかった外出を少しずつ取り入れ季節を感じていただきたいと思います。地域との連携も図れるように進めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から5年が経過し地域とのつながりも少しずつ増えてきています。ホームは閑静な住宅街にあり、近隣には桜や紅葉を楽しめる公園や図書館などの公共施設も多くあります。利用者の方と外出の機会を持ちながら、健康や楽しみにつながるようにしています。また、利用者や家族の方の意思疎通の向上をはかるために、生活記録や事業所内の日誌などを工夫しながら、より良い支援に向けた取り組みとなるようにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の壁に理念を掲示し、一目で理念を見る事が出来るようにしている。職員全員が共通意識を持ち取り組んでいる。	理念は、出・退勤時に職員全員が見やすいよう事務室入り口に掲示されています。しかし、理念の認識等については、もう少し取り組みが必要かと思われます。	理念について職員が理解を深める。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現段階では、交流は出来ていない。コロナウイルスも5類となり、今まで参加できなかった地域活動にも感染対策をした上で参加していけるよう計画している。	コロナウイルス感染症5類移行にともない地域活動への参加を模索されています。町内会長も変わられたので、改めて広報誌等を含め地域との交流を行うよう考えられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のケアの実践内容等を地域住民の方にご理解していただくため、自治会長に協力していただき、町内に文書を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。会議の時に他施設のケアマネ、市職員、包括支援センター職員、家族様等から頂いた助言を活かして、日々のレクリエーションに取り入れられたり、個別のケアに繋げている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催されています。会議には認知症ケアの情報交換を行うため、他施設からケアマネの出席もあります。また、参加者から出た意見を活かして、レクリエーションなどに取り入れています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席された時に意見交換・情報交換を行っている。また直接出向いて相談もしている。また、利用者様の状況変化について必要に応じて家族様に随時連絡をしている。	運営推進会議で意見交換、情報交換を行う他、鳥取市長寿社会課に出向き、入所者の状況や、地域との関わり方などの助言を得ています。また、制度や報酬改訂等の説明も受け事業所運営に活かされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念要綱にも掲げており、身体拘束については毎年1度の話し合いや毎月開催している職員ミーティングにて話題にあげている。また、関連する資料を配布している。	月1回の職員ミーティングで外部研修の報告や話し合いを行い、出席できない職員には資料を渡され理解を深めています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関係の研修会に参加している。職員ミーティング時に報告し職員全員に周知している。また、外出等する際には虐待などについて気を付けるようにしている。また、些細な事でも職員間で話し合える職場環境作りに務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加している。運営方針規定、権利擁護マニュアルを作成し、年間計画に基づき職員ミーティングの際に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書にそって丁寧な説明に心掛けている。また、ご本人様、家族様の疑問、不安点等には分かり易く説明して、理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員として、利用者様、ご家族様にも出席していただき、運営に反映している。また、面会に来られた時に、ご意見・要望をお伺いし、職員全員で共有するようにしている。	運営推進会議に家族、利用者の方が参加し意見等を聞かれる機会がある他、面会時にも意見・要望を伺っておられます。今後、家族アンケートや意見箱の検討も考えておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継ぎ、職員連絡ノートへの書き込みと回覧、毎月の職員ミーティングにて、意見や提案を聞く機会を設けて反映できるように努めている。	引継時や職員連絡ノートを通して、管理者が意見などの把握に努めています。毎月のミーティングで、職員からの意見や提案を直接聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めています。今後、アンケートも検討し、より意見の把握に努めたいと考えておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心、やりがいを持って働ける職場環境作りに務め、職員の意見、要望等をミーティング、個別に対話する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に積極的に参加出来るよう取り組んでいる。職員の個々のケアの実際と力量に合った研修の周知と研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市や社協の研修や勉強会に参加し、同業者との交流する機会を作り、ネットワーク作りやサービスの向上への取り組みを行っている。また、他施設への訪問を行い各施設の取り組みを勉強させていただいた。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には当施設の見学をお願いし、不安な事等を聞き、安心して生活していただけるように努めている。入所後すぐは不安なことばかりなので、本人の話にきちんと耳を傾けるように職員に徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明の際に、ご家族様の思い、不安な事等に耳を傾け納得し安心していただけるように努めている。面会時には、近況等をお伝えし、ご要望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援計画や他機関からの情報を元に、ご本人様、ご家族様と対話する中で最善と思われる支援に繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、各利用者様の思いを把握したうえで、日々の生活を笑顔で楽しく、その人らしく安心して生活してもらえよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と利用者様及び担当職員が出来るだけ連携を取る機会を設けるように努めている。また、当施設に気軽に立ち寄っていただける雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や友人関係の方も訪問しやすい雰囲気作りに努めている。また、馴染みの場所等へ外出し関係が途切れないように努めている。	天気の良い日に近くの袋川の桜土手を散歩するなど馴染みの場所に外出することで、地域の方から声をかけてもらえる機会づくりに努めています。遠くから入所している方には、手紙や出身地周辺をドライブしたり関係が途切れない工夫を考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士と一緒に声を掛けながら色々な事を行えるよう、テーブル、ソファ、席の配置を工夫している。複数の利用者様が関わられるような馴染みの話題等を職員が仲立ちをするように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればいつでも相談に応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの生活スタイル、生活環境及び、思いや意向を把握するよう努めている。	日常の食事や入浴などの場面で、職員が利用者の横で思いや意向をそっと聞き取り、本人の希望に添えるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様及び関係機関等と話し合いを持ち、生活環境等について把握に努めている。入居後においても生活歴等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活動作、会話や表情等により現状の把握に努めている。 医療機関と連携をし身体状況についても把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様の課題とケアについて職員でカンファレンスを開き必要に応じてご本人様、ご家族様等と話し合いの場を設け、主治医の助言を頂きサービス担当者会議に発展させて介護計画に取り入れている。また、モニタリングによる評価を定期的に行っている。	利用者の方に合った介護計画となるよう利用者、家族と話し合い、丁寧にアセスメントを行います。主治医の助言も得て、担当者会議を行い計画を作成しています。計画作成後は定期的にモニタリングを行い、計画が利用者の状況に合っているか評価しておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し、職員間で共有しながら状況の変化や問題点をカンファレンスしサービス担当者会議に発展させて解決に向けて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様等と相談の上日用品の購入やかかりつけ医への受診及び行政等への提出物について付き添い等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めており、有効活用、地域へ溶け込むような取り組みに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医への受診や、当事業所の協力医への提供受診を行い適切な医療を受けていただいている。また、受診結果のご家族様への報告も行っている。	医療受診は、本人、家族の希望によりこれまで利用していた医療機関への受診が行われます。また、近くの協力医が、ほぼ毎週往診し利用者の健康管理が行われています。往診後は、家族に連絡が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師は配置されていない。また、訪問看護の利用も現時点で行っていないが、必要に応じて医療及び看護師と連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関と連携を密にし、状態の変化や緊急時も含め情報交換を行い、何時でも対応可能な状況としている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての説明を行っている。また、重度化が進んだ場合は、ご家族様等の意向を伺いながら、主治医の意見も含め協議していく事としている。	契約時に終末期の説明が行われ、重度化が進んだ場合は、家族等の意向を聞き、主治医の意見を踏まえて協議しています。利用者の状態変化を毎月の職員会議で共有し、早期に家族と相談しながら、次のケアへ向けたプランニングを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル等により、初期対応等の周知徹底を職員ミーティングで行っている。急変時等の対応については、協力医師と速やかに連携できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、職員ミーティング等で周知している。年2回の防災訓練を行い防災マップを元に各災害に対する避難場所等の確認を行っている。地区区長をはじめ地域の方々にも協力をお願いしている。	防災マニュアル、防災マップを職員会議で確認し避難経路や場所の確認を周知し、年2回の防災訓練を実施している。町内会長を通して地区住民の協力体制をお願いし、災害時の協力を運営推進会議などで伝えていきます。	実際の浸水災害を想定した避難を行うために、指定された避難場所へ移動する訓練を行うことが必要です。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性やペースを尊重した言葉かけに努めるとともに、排泄、入浴等プライバシーに配慮した支援を心掛けている。また、日頃の支援の中で気づいた事をお互い話す様にしています。	個人情報の取り扱いについて、入居時に利用者・家族の同意を得ています。人格を尊重する対応等については、定期的な職員研修を行い、日々のケアでも管理者は都度、注意を促し職員同士で注意喚起できる環境整備を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話や様子を見ながら、ご本人様の思い等が出易い声掛けやゆったり聴く等を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に支援を心掛けており、その人らしく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動理美容院を利用される利用者様は、カラーリング等の希望を直接、ご本人様から美容師に伝えてもらう等好みを尊重した支援をしている。衣服については、個人の好みを尊重し、丁寧な支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きな食べ物をお聞きし旬な食材を取り入れメニューとして提供しています。ご本人様のその日の様子を見ながら食材の皮むき等下ごしらえから調理、食事の盛り付け等を職員と共に楽しんで行ってもらい食べて頂いている。片付けも協力していただいている。	職員は利用者の方の健康状態などに合わせて、買い物・準備・盛り付け等と共にしています。日頃から利用者の方に食の意向を聞きながら、メニューに反映させています。また、四季折々の旬の食材を使いながら、食事を楽しむ工夫を心がけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に合わせた食事、栄養バランスを考えた食事を提供している。水分量、食事の摂取量の把握を行い確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合った支援を行い、毎食後の口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表により把握し、それぞれの利用者様に合った排泄介助を行っている。ご本人様と相談の上、紙パンツを使用されている方は、布パンツに替える等の自立に向けた支援も行っている。	排泄記録表によって、利用者個々のパターンを把握し、トイレ誘導を行っています。利用者と相談しながら、パットや紙パンツから布パンツへ替える等、自立へ向けた支援を意識し、職員会議等で共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関への相談も含め、水分摂取量、食物繊維を多く含んだ食材の提供等を心掛けている。また、便秘予防の運動等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて、週2回きちんと入浴できるようにしています。時間帯も決めているのですが、本人のタイミングを聞き、納得していただいてから入浴しています。また入浴時は、本人のペースに合わせてゆっくりと会話をしながら行っています。	入浴は、同性介助を原則としながら週2回を基本として、利用者の体調や希望に合わせて支援しています。意向を尊重し、入浴を好まない利用者には、時間や翌日以降に調整するなど、柔軟に対応しながら、心地よく入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の生活習慣に応じた休息の支援を行っている。室内の温湿度に気を配り、過ごしやすい環境に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、職員間で共有し、服薬時には2人の職員が確認して服薬の対応をしている。また、薬の変更があった場合、薬局に問い合わせをしたり利用者様の状態を主治医にすぐに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、それぞれの利用者様の能力に合わせた役割を職員と共に考え行ってもらっている。季節感のある行事を行い、気分転換の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等にもよるが、日光浴や散歩、希望に沿うよう、戸外に出る支援に努めている。感染状況を見ながら外出を行っている。ご家族様にもご協力していただき、ご本人様の意向に沿えるよう努めています。	近くの公園や、桜の見える土手へ散歩に出かけたり、現在、近くの図書館を利用して、外出の機会を増やしています。感染症の予防に心がけながら、なるべく戸外へ出かける機会が多く持てるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事ができる方は、所持されており、日用品等必要な物を職員と共に、商店で購入される等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる利用者様については、電話の取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室がわかる様に居室の入り口に個別の花の絵を飾っています。常に居心地の良い環境の提供を心がけ、室内の装飾は季節を感じてもらえるよう工夫しています。	季節に合わせた飾り付けや活け花など季節感を感じることができる空間となるよう工夫しています。気温や湿度を定期的に確認し、常時換気・定期的な消毒や清掃により、感染症対策にも心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は、その時の雰囲気や状況により居場所を変えたり、気の合う人同士が過ごせるようにソファや椅子の位置を変える等の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた物を持って来ていただいたり、趣味で作成した物等を居室に飾る等により、居心地の良く過ごせる工夫を行っている。	エアコン・クローゼットを備えた居室には、使い慣れた品を置いて、居心地の良い部屋作りを心がけています。家族面会は居室で行われるようになったこともあり、家族と相談しながら居室内の環境を整備しています。気温や湿度を確認し快適で安心できる居室空間作りに注力しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には、それぞれトイレ、脱衣所、及びリビング等の表示を工夫し、分かりやすさや安全に配慮した工夫が行われ、戸惑い等の混乱を防ぎ安全な環境作りに心掛けている。		